

文化財学習会

ふるさと探訪

テーマ 木太町～今里町周辺を訪ねる

講師 高上 拓

平成23年 4月29日（金）

共催 高松市歴史民俗協会
高松市教育委員会

はじめに

木太町く今里町周辺を訪ねる

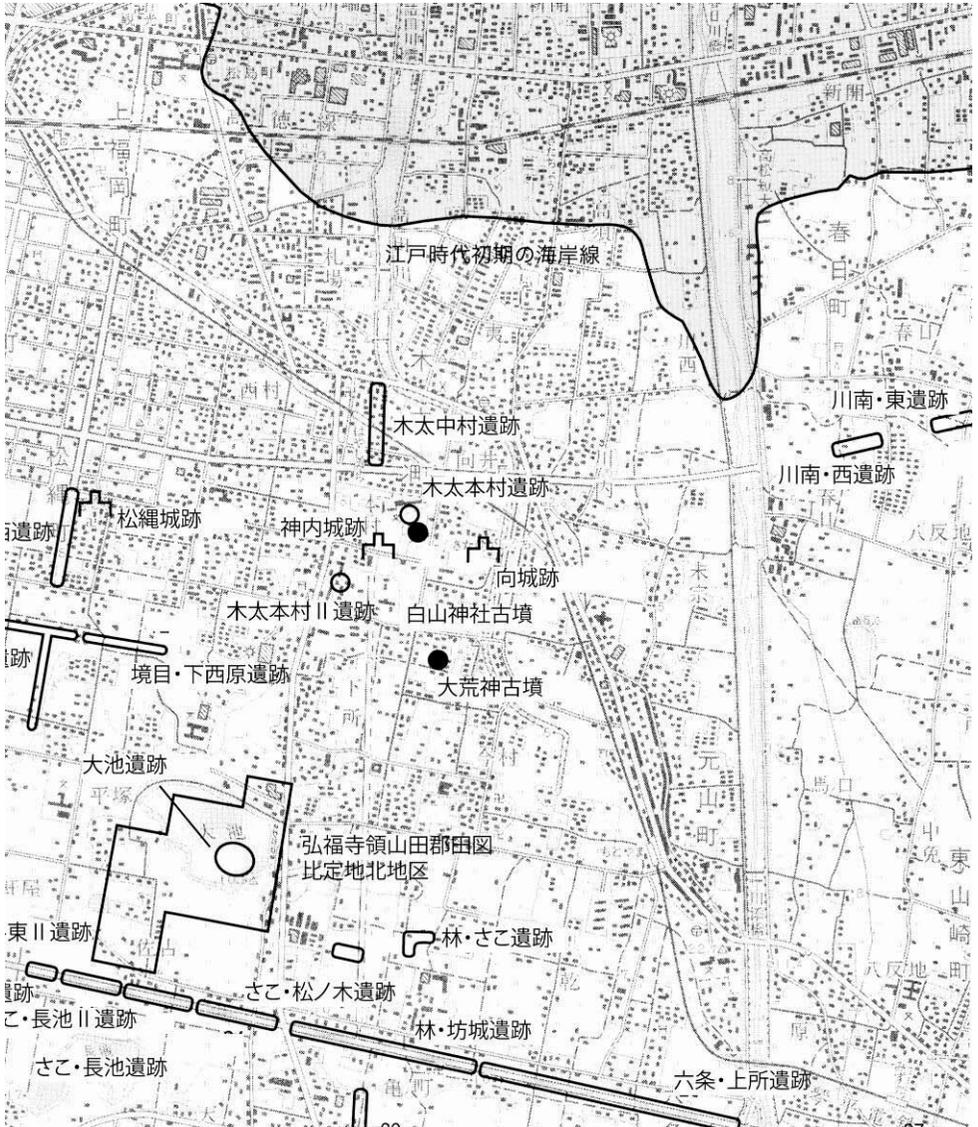
今回のふるさと探訪は木太南コミュニティセンターを出発し、向城跡、白山神社古墳、神内城跡、八坂神社、熊野神社（伝松縄城跡）、平石井神社の天然記念物クログネモチを訪ねる、木太町から今里町周辺を歩くコースです。

木太町周辺では、弥生時代に遡る生活の痕跡が確認されているのをはじめとして、古墳や中世の城館など、重層的な歴史をもち、現在も市街地周辺の住宅地として発展しています。かつては入り江が平野部深くまで入り込んでおり、現在とは大きく異なる景観をみせていました。

今回のふるさと探訪では、中世の城館と神社を数多く訪ねます。中世動乱の時代に、木太町周辺で展開された武将たちの活躍と、地域の信仰の変遷をテーマに歩きたいと思います。



木太中村遺跡出土弥生土器



木太町～今里町周辺の遺跡分布図

1 向城跡

向城は木太町向井に所在する中世の城跡で、向井城あるいは真鍋城といった呼称もあります。現地には土塁状に一段高い地形が残っており、城の一部であったと考えられます。

城主は真鍋氏で、戦国時代の当主真鍋祐主すけぬし・祐重すけしげ親子は、香西氏の配下として活躍しました。特に子の祐重は長宗我部氏の讃岐侵攻や、朝鮮出兵で武功を挙げたことが記録に残っています。

「南海治乱記」という軍記物によると、向城は溝と堀で囲まれた堅固な城であったこと、出陣に際しては300人を率い、近畿地方へ出兵するときは200人、讃岐のならば500人を動員可能であったことなどが記されています。平野部に位置し、水運の要所にも近い地点であり、戦略的に重要な役割を果たしていたと考えられます。

現在では土塁の上に荒神社が祀られており、祠の周辺に五輪塔や宝篋印塔の一部が散在しています。



現地に残る土塁

2 白山神社古墳

白山神社古墳は木太南小学校の東側に位置する古墳で、現在は古墳の上に白山神社が祀られています。

昭和六十年七月に高松市教育委員会が発掘調査を実施しており、直径十一〜十二mの円墳であることが分かりました。また、亡くなった人を埋葬する施設（せっかく 竪穴式石槨）も見つかりました。残念ながら盗掘されていたため、副葬品などは見つかりませんでした。石槨の内部には赤い顔料を塗った痕跡が見つかりました。魔除などを目的として塗られたものと考えられます。

白山神社古墳は標高二〜三m程度の低地に位置しています。同時期の古墳は山の上に造られることがほとんどであることから、特殊な立地であることがわかります。木太町周辺の平野部に影響力を持った有力者の墓であると考えられます。



白山神社古墳の埋葬施設

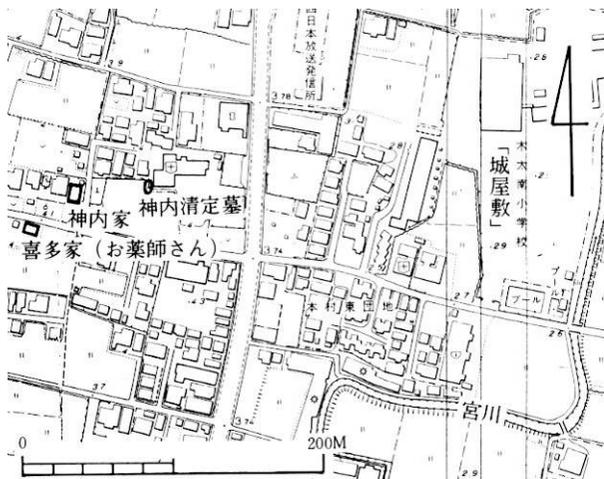
3 神内城跡

神内城は別名木太城ともいい、現在の木太南小学校周辺が城跡であったと想定されます。小学校の南を流れる宮川は鍵形に曲がっており、かつて堀跡として利用されたと考えられています。小学校の北東側と南東側に橋がかかっていますが、南東側の橋が元は石橋で、城へ入る通路であったと考えられます。

城主は植田氏の一族神内氏であり、戦国時代には神内景之・清定親子が十河氏に属していました。神内氏の本拠地はもと西植田でしたが、十河氏の配下であった時、植田に三百石、木太本村に七百石を領し、木太町の領地の方が多くなったため、移住してきたと言われています。

神内城周辺は東に真鍋氏の向城、西に宮脇氏の松縄城と、香西氏配下の武将の城の間に築かれています。

こうした状況の中での神内氏の移転は、香西氏の勢力範囲に、いわば楔を打ち込むという意味で、意図的なけん制の意味もあったのではないかといわれています。





木太町周辺の城館跡

4 八坂神社

八坂神社は木太町本村に所在する神社で、明治時代までは入江神社と呼ばれる、木田郡の神社でした。神社の由来は、尾張から牛頭天王が甕とともに楠のいかだに乗って漂着し、神の現れた地として祠を建てたのが始まりであると古文書（大政所書）に記されています。当地がかつて入り江に面した地形であったことが良く分かります。

牛頭天王社として地域の信仰も篤く、歴代藩主の庇護を受けていましたが、明治時代の神仏分離等により、祭神をスサノオノミコトに変え、現在の八坂神社という名称に変わりました。現在の拝殿は明治七年に別当寺であった真福寺の本殿を移築したものです。



八坂神社境内

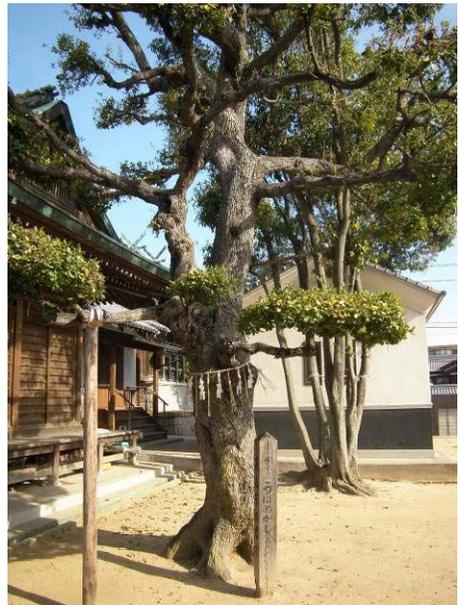
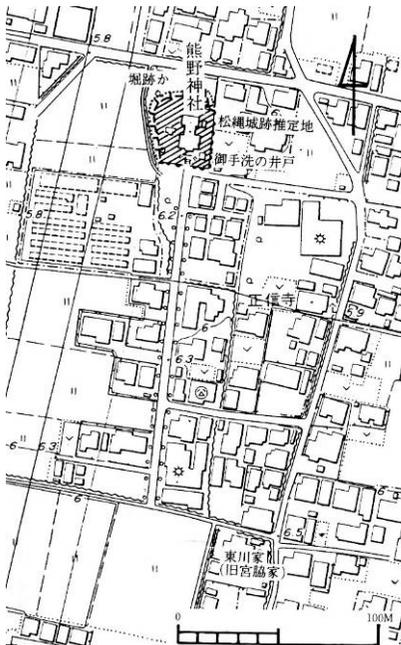
5 熊野神社（伝松縄城跡）

熊野神社は松縄町に所在する、熊野信仰の神社です。本宮・那智・新宮の三社神を紀州熊野から迎えて合祀しており、鎌倉時代に開祀されたと伝えられています。神社の境内には御手洗という井戸があり、水質がよく飲用も可能であったようです。周辺の水は金気が多く飲用に適さないといわれているため、利水の面でも有利な土地で会ったことが分かります。また、境内に繁るウバメガシは市の名木として指定されています。

熊野神社周辺は、周囲に比べて高い地形になっており、松縄城跡ではないかと推定されています。松縄城は宮脇氏の居城として築城されました。宮脇氏は、源平合戦の際、源氏と結んで紀州熊野の海賊を率いた新宮別当湛増たんぞうがその祖であるとされます。屋島や志度の合戦で軍功のあった湛増が、讃岐国に領地を得たため、その子孫が松縄に居住するようになったと言われています。戦国時代には、宮脇長定、兵庫頭、又兵衛と続き、兵庫頭の娘が香西佳清の家臣と縁組したことから、香西氏とのつながりが強くなりました。兵庫頭の子又兵衛は、織田信長、豊臣秀吉に仕え、毛利攻めや山崎合戦で大いに軍功を上げ、武名の高い人物でした。又兵衛の子九郎兵衛は生駒正俊に仕えています。



熊野神社境内



境内のウバメガシ

6 平石井神社のクロガネモチ

高松市今里町に所在する平石井神社のクロガネモチは、市の天然記念物に指定されています。

クロガネモチは、モチノキ科の常緑広葉樹で、若い枝が黒みがかった鉄（クロガネ）のように見えることが名前の由来です。

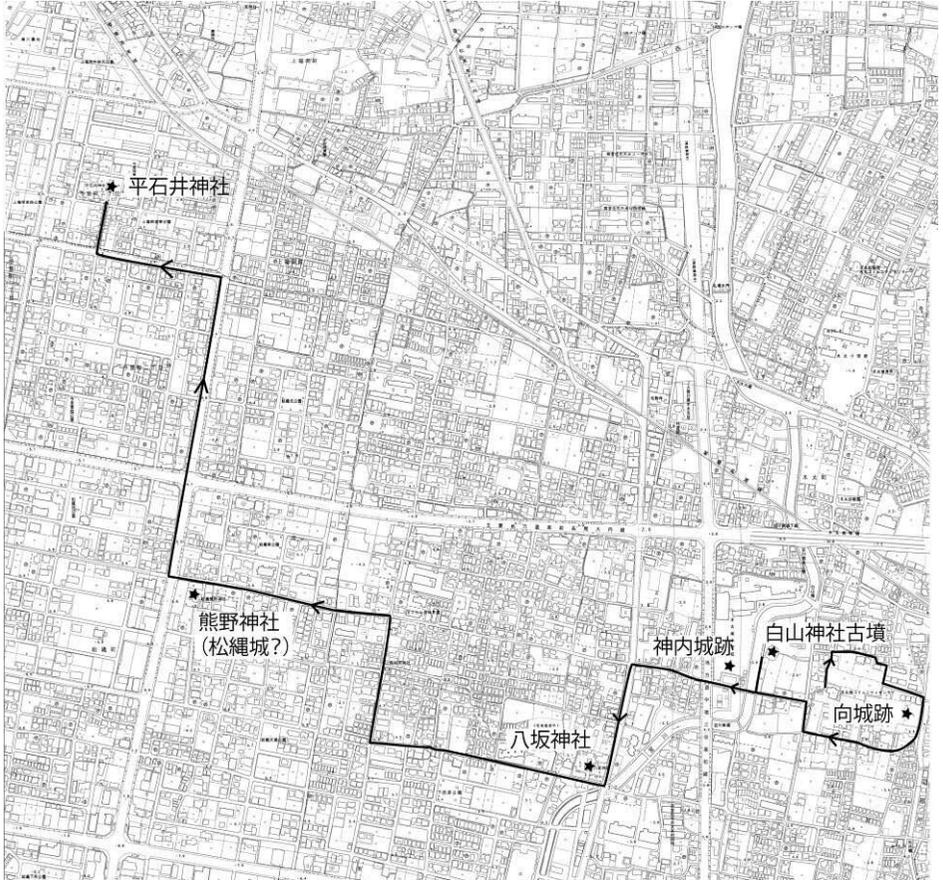
高松の方言で、「ヒチジヨウ」ともいい、温暖な山林に自生しますが、雌株には赤い実を付け美しいので庭木に利用されることもあります。

平石井神社の境内には、クロガネモチの他、アラカシ・ウバメガシ・クスノキ・ネズミモチ等の常緑樹が繁茂しています。また、老樹には幹の一部に空洞があるためか、毎年、青葉のころになるとアオバズク（フクロウ科）が南方より飛来して繁殖しています。



【参考文献】

- 秋山忠『古城跡を訪ねて』高松市の文化財 第七編 高松市歴史民俗協会・高松市文化財保護協会
木太町郷土誌を作る会一九九五『木太町郷土誌』
香川県教育委員会二〇〇三『香川県中世城館跡詳細分布調査報告』
高松市教育委員会二〇〇一『木太中村遺跡』
高松市教育委員会二〇〇一『神内城跡』
高松市教育委員会二〇〇五『木太町神内城跡』第2次調査』
高松市教育委員会二〇〇七『白山神社古墳』



探訪ルート

4月29日（金・祝日） 今里

ことでん花園 ことでん瓦町 ことでん築港

12:17 → 12:20 → 12:25

12:37 → 12:40 → 12:45

【次回】

5月22日（日） 東かがわ市松原（白鳥神社周辺）

JR高松駅 JR讃岐白鳥駅

7:17 → 8:32



次回のふるさと探訪は・・・

テーマ 白鳥周辺の社寺をねる

とき 平成23年5月22日（日）

9:00～12:00

集合場所 白鳥神社（東かがわ市松原）

※若干台数分 駐車場あり

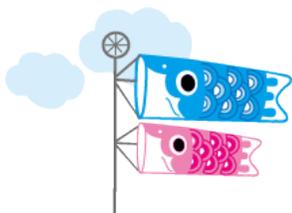
（最寄駅：JR高徳線 讃岐白鳥駅から徒歩約6分）

講師 正木 英生（東かがわ市文化財保護審議会委員）

☆「広報たかまつ」5月15日号に開催案内を掲載しますので、
ご覧ください。

☆天候等により中止の場合のみ文化財課（TEL 839-2660
「午前7時～開始時間まで」）でお知らせします。

（電話が通じない場合は、「実施」です。）



「ふるさと探訪」に
参加される皆様へ



※ 参加中は、次のことに充分留意し、
安全で意義のある探訪としましょう。

- 1 交通ルールを守り、交通安全を心がけましょ
う。
(必ず、歩道を歩き、歩道が無いところでは、道
路の端を一直線で歩きましょう。)
- 2 無理をせず、体調には十分気をつけましょ
う。
- 3 引率者の指示に従い、整然と行動しましょ
う。
- 4 マナーを守り、他人に迷惑がかからないよう気
をつけましょ
う。
- 5 文化財や自然を大切にしましょ
う。